

は、水稻作の雑草防除作業を一層省力化し、かつ安定化させる意味で極めて有意義である。

Sートリアジン系のうちのトリン型除草剤（プロメトリン・アメトリン・シメトリン）の湛水下雑草処理によるヒルムシロ防除は、すでに一部は実用化されているが、極めて注目すべき事柄である。これの利用原理は(i), (ii)の他に(iii)作物と雑草の形態的な差」を利用しているものようである。プロメトリンによりヒルムシロが有効に防除可能であるという現実が発見されるまでは、このことは、除草剤の合成研究者・生化学研究者・利用研究者や雑草の個生態研究者など誰もが、夢にだに想像しなかったことである。これは「コロンブスの卵」ということができ、またヒルムシロに困っていたからこのような発見をしたものと考えられ、「必要は発明の母」ともいえよう。これは現在における除草

研究のありのままの姿の一面を端的に表現しているものといえよう。と同時に、これは今後の除草剤研究の重要な一つの方向を示唆しているようにも思われる。すなわち除草剤の利用技術の創造は、理づめではいけない面が多く、着想したらともかく実践して、充分な観察力で観察することである。

本誌第5号の拙稿「除草剤粒剤の問題点」のうち、その研究のねらいに「第4には粒状で散布されるので、除草剤が飛散して附近の他の作物とくに広葉作物への被害を防止することが期待できる。」を挿入する。そして、「これまでの研究の結果、第4のねらいはほぼ完全に満足することが実証された。」を挿入する。

昭和42年度春夏作そ菜花き関係

除草剤・生育調節剤試験成績概要

農林省園芸試験場 戸田幹彦

表記試験成績検討会が11月10日東京で開催されたのでその概要をここに報告する。

昭和42年度春夏作に対し供試された薬剤は、延べ37点におよび、それらを第1表（除草剤）と第2表（生育調節剤）に一覧表としてかかげた。今期試験では処理時の作物に対する影響のみならず、その後作として栽培された作物に対する影響（残効）についても一部の薬剤で試験された。

これらの中で有望と認められ、実用化あるい

は一部実用化の判定を受けた薬剤は、カンランに対するMO-338・パラコート、レタスに対するSLH-14、ナスに対するパラコート、スイカに対するパラコート、ニンジンに対するMO-338・CMMP、ゴボウに対するMO-338、トマトに対する改良トマフィックスであった。なお、各薬剤に対する判定結果を一覧表として第3表にまとめた。また、実用性の認められた薬剤については、作物別の使用基準を第4表に示した。

試験結果の詳細については、当研究協会発行「節剤試験成績集録」（既刊）および「同要録」の「昭和42年度夏作そさい関係除草剤生育調」（現在印刷中）を参照されたい。

<第1表> 昭和42年度春夏作そ菜・花き関係供試除草剤一覧表

対象作物	薬 剤 名	有効成分および含有率・剤型	委託会社
そ 菜 一 般	C P - 5 0 1 4 4	未公開 48%乳 剤	M N 研 究 会
	M K - 0 7 2	$\text{CH}_2\text{Cl} \cdot \text{C} \cdot \text{Cl}_2 \cdot \text{CONH}_2$ 40%乳 剤	三 菱 化 成
カ ン ラ ン	C P - 5 0 1 4 4	前 掲	M N 研 究 会
	M O - 3 3 8	2,4,6-トリクロロフェニル-4'-ニトロ フェニルエーテル 20%乳 剤	M O 普 及 会
	パラコート（カバー付き）	1,1'-ジメチル-4,4'-ビピリジウム ジクロリド 24%液 剤	武 田 薬 品
ホ ウ レ ン ソ ウ	R O - 4 0	S-エチル エチルシクロヘキシルチオ カーバメイト 72%乳 剤	東 洋 棉 花
レ タ ス	トリフルラリン	α, α, α -トリフルオロ-2,6-ジニトロ N, N-ジプロピル-P-トルイジン 47.98%乳 剤	塩 野 義 製 薬
	S L H - 1 4	N-ブチル-N-エチル- α, α, α -トリフ ルオロ-2,6-ジニトロトルイジン 18%乳 剤	"
	M O - 3 3 8	前 掲	M O 普 及 会
パ セ リ	C M M P	N-(3-クロル-4-メチルフェニル) -2-メチルペンタンアミド 45%乳 剤	中 外 製 薬
ト マ ト	C P - 5 0 1 4 4	前 掲	M N 研 究 会
	R - 2 0 6 1	S-プロピル-ブチル, エチルチオカーバ メイト 75%乳 剤	東 洋 棉 花
	S W - 6 7 0 1	未公開 50%水和剤	三 共
	B - 5 7 0 6	未公開 50%乳 剤	日 本 特 殊 農 薬
ナ ス	パラコート（カバー付き）	前 掲	武 田 薬 品
キ ュ ウ リ	C P - 5 0 1 4 4	前 掲	M N 研 究 会
	B - 5 7 0 6	"	日 本 特 殊 農 薬
ス イ カ	B - 5 7 0 6	"	"
	トリフルラリン	"	塩 野 義 製 薬
	パラコート	"	武 田 薬 品 日 本 農 薬
イ チ ゴ	C M M P	"	中 外 製 薬
ニ ン ジ ン	C P - 5 0 1 4 4	"	M N 研 究 会
	M O - 3 3 8	"	M O 普 及 会
	C M M P	"	中 外 製 薬
ゴ ボ ウ	M O - 3 3 8	"	M O 普 及 会
パイナップル	ワイダック	8,4-ジクロロプロピオンアニリド 35% 1-ナフチル-N-メチルカーバメイト 7% 乳 剤	ワイダック普及会

対象作物	薬剤名	有効成分および含有率・剤型	委託会社
チューリップ	PAC・BIPC	ブチニル- <i>m</i> -グロルブ エニルア-パメイト 16% 1-フェニル-4-アミノ-5-グロル 20% 水和剤 ピリダゾール-6	北興化学
残効	ジフェナミド	N,N-ジメチル-2,2-ジフェニル酢酸 アミド 80%水和剤	塩野義製薬
	H-634	3-シクロヘキシル-5,6-トリメチレン ウラシル 80%水和剤	丸和物産

<第2表> 昭和42年度春夏作そ菜・花き関係試生育調節剤一覧表

対象作物	薬剤名	有効成分および含有率・剤型	委託会社
トマト	RP-7846	2-フルルミル-4-クロロフェノキシ酢酸 10%溶剤	塩野義製薬
	改良トマフィックス	β -ナフトキシ酢酸 (Na) 0.5% 5456 0.025% 液剤	日本特殊農薬
	N-7-5	脂肪族有機化合物 90%乳剤	日本農薬
キュウリ	2,4,5-T, E	2,4,5-トリクロルフェノキシ酢酸 イソプロピルエステル 8.6%乳剤	2,4-D協議会
	N-7-5	前掲	日本農薬
	BCB	ブロムコリンプロマイド	片山化学
花木類	G-431	未公開 1%液剤	日産化学
	ナフタリン酢酸・ 塩酸チアミン	α -ナフタリン酢酸 0.5% 塩酸チアミン 1.0% 粉剤	日本薬品化学

<第3表> 昭和42年度春夏作そ菜・花き関係除草剤・生育調節剤試験結果判定一覧表

対象作物	実用化	実用化と継続	継続	継続?	中止
そ菜一般			CP-50144, MK-072		
カンラン	MO-338 パラコート		CP-50144		
ホレンソウ				RO-40	
レタス		SLH-14 (移植栽培)	トリフルラリン, SLH-14(直はん栽培), MO-338		
パセリ			CMMP		
トマト			CP-50144, R-2061, SW-6701, B-5706		
ナス	パラコート				
キュウリ				B-5706	CP-50144
スイカ	パラコート		B-5706, トリフルラリン		
イチゴ			CMMP		
ニンジン	MO-338	CMMP	CP-50144		

対象作物	実用化	実用化と継続	継続	継続？	中止
ゴボウ	MO-888				
パインアップル			ワイダック		
チューリップ				PAC・BIPC	
残効			ジフェナミド, H-684		
トマト	改良トマフィックス		RP-7846	N-7-5	
キュウリ			B C B	2,4,5-TE, N-7-5	
花木類				ナフタリン酢酸・ 塩酸チアミン	

<第4表> 昭和42年度春夏作そ菜・花き関係実用化除草剤・生育調節剤使用法基準一覧表

対象作物	薬剤名	処理方法	使用量 製品/a	使用上の注意
カンラン	MO-888	定植後株間土壌	125~150g	作物になるべくかからぬよう、ナデシコ科雑草には効果が劣る。
	パラコート	生育中うね間雑草	80g	作物にかからぬよう。
レタス	SLH-14	定植後土壌	100~150g	露地移植栽培で使用する。
ナス	パラコート	生育中うね間雑草	80g	作物にかからぬよう。
スイカ	パラコート	生育中うね間雑草	80g	作物にかからぬよう。
ニンジン	MO-888	は種後土壌	125~150g	ナデシコ科雑草には効果が劣る。
	CMMP	生育中全面雑草	50~100g	ニンジン3葉期以降で雑草の小さいうち。
ゴボウ	MO-888	は種後土壌	125~150g	ナデシコ科雑草には効果が劣る。
トマト	改良トマフィックス	花房散布	100倍液	2~3花開花時に散布。